

吹上浜 砂の祭典!!

鹿児島県南さつま市で砂の祭り『吹上浜砂の祭典』が5月に行われています。

☆吹上浜砂の祭典が始まったのはいつ?

「吹上浜砂の祭典」は**1987年(昭和62年)**に鹿児島県の南西部にある、**加世田市**の市民が、**地元**の美しい砂浜を生かして**町おこし**をしたいという思いから始まったイベントです。

☆どんな砂像があるの?

毎年イベントテーマを決め、テーマに沿った砂像を作ります。今年のテーマは「**和んだふる ジャパン ~砂で描く日本の宝~**」。会場内には**巨大なお城**をメイン砂像に、大小合わせて**約80基**もの砂像が並びます。砂像を作るのは、世界中から招く**招待作家(砂像制作のフロ)**、**地元有志グループ**、**地元小中学校の生徒たち**です。また、砂像制作には、地元のボランティア**1000人以上**が協力をしています。祭典は、迫力ある砂像の展示を中心に、音と光のファンタジーやさまざまな体験イベント、地元物産販売、地域資源を活用した広域イベント、スタンプラリーなど、様々な企画が盛りだくさんです!!



●開催日時
2014年5月2日(金)
~5月31日(土)



◎会場
丘の杜きんぼう内
特設会場
*鹿児島中央駅より会場
直行バスあり。
◎お問い合わせ
TEL:0993-53-2111
(吹上浜砂の祭典実行委員会)

「美味かった〜」
「フロかっな〜」



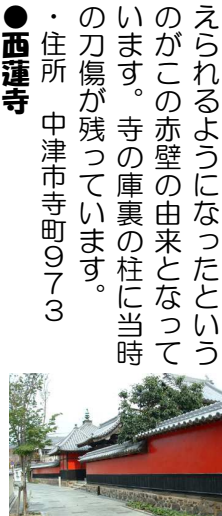
どちらかと言うとビール党だった私が、年を重ね、いつしか焼酎を愛するようになりました。ところが昨年、ものすごく美味しい日本酒に出会いました。その名も「**瀬祭(だっさい)**」。全て純米大吟醸であることが特徴で、スタンダード商品でも、純米大吟醸からスタートします。最高の酒米といわれる山田錦だけを磨いて醸した純米大吟醸!瀬祭の専門バーがあるくらい人気沸騰中です。



大河ドラマ放送中! 黒田官兵衛ゆかりの地をご紹介します!!



●合元寺
通称「**赤壁寺**」といわれるこの寺は、**天正15年(1587年)**、**黒田官兵衛**に従って姫路から中津に來た開山空誓上人が開基したと伝えられています。その後、中津城内で宇都宮鎮房を討ち、合元寺で待機していた**從臣たち**を殺しました。その時の血が何度塗り替えても染み出てくることから、ついに赤色に塗り替えられるようになったというのがこの赤壁の由来となっています。寺の庫裏の柱に当時の刀傷が残っています。
・住所 中津市寺町973



●西蓮寺
開期・**光心師**は俗名を「**黒田市右衛門**」
といひ、**黒田官兵衛**の末の弟です。父**黒田職隆**の逝去に伴い、出家したといわれ、**官兵衛**を慕い中津に移り、**天正16年(1588年)**に当寺を開山しました。
・住所 中津市998



●中津城
官兵衛は、**高瀬川(現中津川)**の河口を巧みに利用し、**天正16年(1588年)**に築城を始めました。堀に海水を引いた中津城は、**日本三大大水城**のひとつに数えられています。現在の天守閣は、**昭和39年**に建築されたもので、**中津藩**最後の藩主**奥平家**の甲冑や古文書など貴重な史料が展示されています。
・住所 中津市(二ノ丁本丸)



●円成寺
通称「**河童寺**」をいわれるこの寺は、**黒田官兵衛**による開基で、**真言上人**の開山。黒田氏が福岡に移った後も細川氏、小笠原氏など歴代の藩主に大切にされてきました。境内の「**河童の墓**」は**黒田二十四騎**のひとり、**野村太郎兵衛**の墓ともいわれています。
・住所 中津市寺町961-2



旅ランド通信

4月号

発行所

旅ランド本社営業所
福岡県直方市古町4番9号
TEL 0949-29-7777
FAX 0949-29-7778
いい旅いっぱい! 検索 Click!
nogata@tabiland.jp

今月の紙面

大河ドラマ放送中! 黒田官兵衛ゆかりの地を
「ご紹介!」 一面右上
吹上浜 砂の祭典!! 一面左上
添乗員日記 第二十八話「添乗業務に過信は禁物!」
「仕事に慣れた頃に落とし穴あり」 一面下
春の訪れを感じさせる和歌山県 一面右下

添乗員日記

第二十八話 「添乗業務に過信は禁物!」
「仕事に慣れた頃に落とし穴あり」

旅行業に携わって約8ヶ月は経っていた頃だったと思います。添乗回数も7回ほど、少し自信もついてきた頃でした。30人程のお客様を京都へご案内することになりました。

京都といえば金閣寺をはじめ清水寺や平安神宮など歴史に名高い建造物がたくさんあり、社寺(本山)も多く国の重要文化財に指定された本尊や諸仏も秘蔵されており連日観光客で賑わっています。

そんな行程も終え京都駅に到着、荷物の整理もでき、お客様をホームへご案内します。乗車口は14号車で、小旗を掲げてお客様をホームへ誘導。ホームに着くと14番の表示が20mほど左先に見えたのでそこへご案内。着いてみるとその先20mほどにも14番の表示があり、まだ先かと思いつつに20mほど進むとその先にも14番の表示…。何の疑問を持たずどんどん進んでしまい、2号車乗降口まで来たあたりで反対方向に進んでいることに気づき(実は14番線と14号車を間違っていました)、ふと後ろを振り返ると、振分けした荷物を肩に担ぎ!両手にはお土産を重たく下げ、額に汗したお客様が続いていました。

瞬間、「申し訳ありません!!こちらが反対側でした。14号車はうしろ側になります!」と私は大声で叫びました。

当然のことながら「ばかやろう!」の怒号が帰ってきました。「申し訳ありません!」何度も何度もお詫びしながら14号車の乗降口になんと到着、冷や汗がたらたら落ちてきてそこでもお詫びの繰り返しです。

これが落ち着くまでのこの間(ま)がかなり長く感じられ、忘れることのできない経験でした。(新幹線1両の長さは25m、最初5両分125m戻って14号車までは300mほど、計425mを荷物がかかえて無駄に歩かせたことになる)

京都駅を出発の頃にはだいぶ落ち着き予定の時刻に発車、間もなくして隣席の幹事さんから、「添乗員さん気にしないでいいよ、失敗はあるさ!次からないように頼むね!」と慰めの言葉を聞いた時は複雑な想いでした。道中車内ではこの話が持ちきりで列車はまもなく小倉駅に到着、下車するお客様からは「いい思い出ができた!。また頼むね」の言葉に私は身の引き締まるおもいでお送りしました。

(篠原 奇)

